

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する公開情報

研究機関名：筑波メディカルセンター病院

倫理審査承認日： 2022 年 11 月 16 日 (変更申請の承認日 2026 年 1 月 19 日)
研究課題名：高速液体クロマトグラフ (HPLC)を用いたリネゾリド血中薬物濃度測定の妥当性検証
研究期間：研究実施許可日～2029 年 3 月 31 日
研究対象：当院に入院中もしくは通院中で、リネゾリドを点滴もしくは内服投与されている方。
<p>対象材料</p> <p><input type="checkbox"/>病理材料（対象臓器名 ）</p> <p><input type="checkbox"/>生検材料（対象臓器名 ）</p> <p>■血液材料 <input type="checkbox"/>遊離細胞 ■その他（ 診療情報 ）</p> <p>上記材料の対象期間 倫理委員会承認日 ～ 2028 年 10 月 31 日</p>
<p>意義・目的：</p> <p>血中薬物濃度測定（TDM: Therapeutic Drug Monitoring）とは、個々の患者の血中薬物濃度を測定し、薬効および副作用を的確に把握した上で、有効血中濃度になるように用法・容量を個別に調整する医療技術です。わが国では、さまざま抗菌薬や抗てんかん剤、免疫抑制剤などにおいて、TDM は特定薬剤治療管理料として保険診療で認められており、日常診療で用いられています。</p> <p>メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）治療薬のリネゾリドは、βラクタム剤耐性ブドウ球菌、腸球菌、難治性グラム陽性菌感染症の切り札ともいえる治療薬です。本研究では、日立ハイテクアナリシス社により開発・製造されている、高速液体クロマトグラフ (HPLC)を原理とした医療機器・LM1010 を用いて、リネゾリド TDM 測定について他法と比較し、分析学的妥当性について評価を行います。</p>
<p>方法：</p> <p>学会・論文などに公表するデータは集計データであり、個人が特定されることはありません。また、本研究で得られた情報は、個人名・診察番号は記入せず個人が特定されないよう配慮します。なおこの研究への情報提供を希望されない場合には、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その患者様の情報は利用いたしません。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。</p>
<p>問い合わせ等の連絡先</p> <p>筑波メディカルセンター病院 感染症内科</p> <p>寺田教彦（代表番号 029-851-3511）</p>